

ソーシャル PM ニュース 2015年6月

PMI 日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

ソーシャル・プロジェクト（社会課題の解決を目的とするプロジェクト）のマネジメントについて、研究活動の状況、イベント、人材募集などについてお伝えします。

2015年6月 もくじ

A. 研究会活動の状況

A1 WG3（ソーシャル PM 普及活動 WG）の活動計画紹介

A2 ソーシャル PM 一問一答

B. ソーシャル PM コミュニティ&イベント

B1 ソーシャル PM コミュニティ（Facebook 公開グループ）にご参加ください

B2 「デザイン思考ソーシャル PM」のあらすじ～PMI 日本フォーラムで解説

C. 連携団体情報・プロジェクト・マネジャー募集

C1 「WORK FOR 東北」プロマネ募集

C2 「サービスグラント」イベントのご案内・プロマネ募集

A. 研究会活動の状況

A1 WG3(ソーシャル PM 普及活動 WG)の活動計画紹介

ソーシャルPM研究会は、4つのWG（ワーキング・グループ：作業部会）によって構成されており、各WGの役割とWG間の関係は図1に示すとおりです。

今回はワーキング・グループ3（WG3、ソーシャルPM普及活動WG）の計画についてご紹介します。

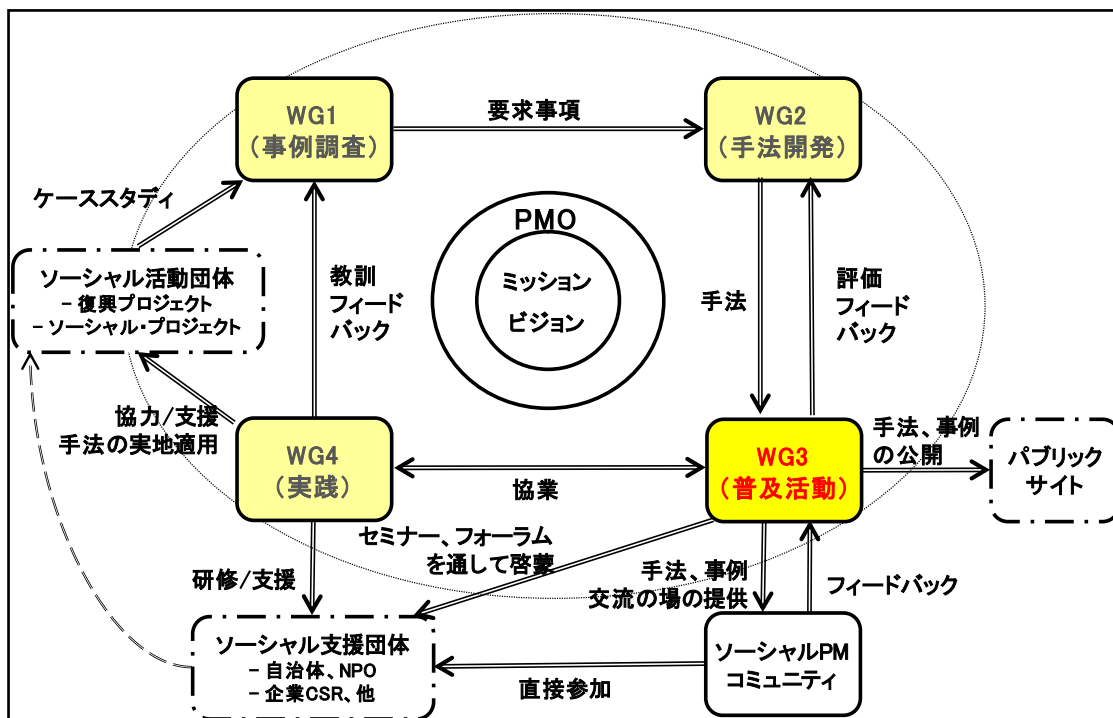


図1 ソーシャルPM研究会の全体像

WG3（ソーシャルPM普及活動WG）は、広く社会全般にソーシャルPM手法を発信し、実活用が可能な状態を目指します。そのために以下の活動を行います。

- ・ 研究会活動の成果発表の場を提供、参加者からの評価のフィードバック
- ・ 広く世間へ「ソーシャル・プロジェクトマネジメント手法」の情報発信
- ・ ソーシャル活動に関心のある方のマネジメント「コミュニティ=たまり場」の運用

本年度の活動は図2に示したように次の3つの柱で進めています。

- ① ソーシャルPMセミナー／ワークショップの開催
- ② 研究会活動をWeb／Facebook／ニューズレターで情報発信
- ③ ソーシャルPMコミュニティの形成と活性化

		2015年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
イベント			★セミナー									ワークショップ★	
WG3 活動	1	セミナー準備							ワークショップの準備				
	2	Web/Face book/ニューズレターによる情報発信											
	3		ソーシャルPMコミュニティの形成と活性化										

図2 WG3（普及活動）の2015年 年間計画

ここでは、本年度の活動計画の概略を説明します。

① ソーシャルPMセミナー／ワークショップの開催

2014年、2015年と定期的に、研究成果やPM手法についてPMI日本支部会員やソーシャル活動家のみなさんに向けて、セミナーとワークショップを開催してきました。これまではまだ研究初期段階のものが中心でしたが、今年からはより具体的な手法を提供できるようにしてまいります。

セミナー／ワークショップの開催は私たち研究会にとっても良い勉強の場です。WG2で研究開発するソーシャルPM手法がソーシャル・プロジェクトの活動で有効な手法となるには、ソーシャル・プロジェクトに関わる方々に研究会の取り組み、成果を都度レビューしていただき、フィードバックするスパイラルな開発プロセスが有効であると考えています。そのマイルストーンとして2014年、2015年の2月に「ソーシャルPMセミナー」を開催し、まさしくソーシャル・プロジェクト関係者とプロマネが交流する機会が実現しました。

② Web/Facebook/ニューズレターによる情報発信

世間により広くソーシャルPMを知っていただけるように、Web/FaceBook/ニューズレターその他を使用して研究会メンバーが頻繁に情報発信をしていきます。この日ごろの活動で多くの方をソーシャルPMの世界にお招きしたいと考えています。

みなさんからもぜひFacebookサイトでどしどしご要望をお聞かせください。Facebookの公開グループについては下記の「B1 ソーシャルPMコミュニティにご参加ください」の記事でご案内しています。

③ ソーシャルPMコミュニティの形成と活性化

ソーシャルPM研究会内部のコミュニケーションはサイボウズLiveを、研究活動について外部への発信はPMI日本支部のウェブサイト、ニューズレターを媒体としてしまし

たが、みなさんとの情報交換の場として今月から「ソーシャルPMコミュニティ」というFacebook公開グループを開設しました。コミュニティの主な対象として、以下を想定しています。

- ・ ソーシャルPM研究会ほかPMI日本支部会員
- ・ 社会課題の解決に取り組んでいる活動家の方
- ・ その他ソーシャルPM研究に関心がある方

ソーシャルPM研究会の活動の発信を強化し、認知していただくとともに、ソーシャルPMの普及を図るため、外部のソーシャル活動家、ソーシャル活動へのプロジェクトマネジメントの適用に関心がある方との情報共有、意見交換の場になります。コミュニティを通してソーシャル・プロジェクトマネジメントの関心を高めるとともに、手法の普及とソーシャル・プロジェクトへの実践参加を促進していきます。

なお、ソーシャルPM研究会全体についてのご案内は次のサイトをご参照ください。

https://www.pmi-japan.org/session/study_club/social_pm.php

これらの活動にご関心を持たれましたら、ぜひオブザーバーで参加してみてください。

A2 ソーシャルPM 一問一答

ソーシャルPMという新しい取り組みはまだ概念も十分に確定していないので、いろいろな質問をいただきます。その中で特に広くみなさまにご理解いただきたいテーマについて連載で解説していきます。

内容についてみなさまのご意見もお聞かせください。

(Q3) デザイン思考て何ですか？

(A3) 現場の状況や人々の行動/思考を観察/体験して問題の本質を洞察し、課題を再定義して仮説を作り、プロトタイピングによる試行錯誤を繰り返して解決に導くアプローチです。

ちょっと分かり難いですね。デザイン思考というキーワードでウェブサイトを検索してもズバリという説明が見つかりませんので、ここで解説を試みます。

改善や改革を考えると、問題を定義して、その解決策を作ります。その問題解決アプローチには、大きく分けてトップダウンのアプローチとボトムアップのアプローチがあります。トップダウン・アプローチは、まず理論的にあるべき姿を描いて、現実の制約を考慮しながら実現する方法を考えていきます。逆にボトムアップ・アプローチでは、現状を調査して問題点を見つけ出し、それを除く方法を考えます。どちらの場合も、事前に問題

が認識できて、解決策（複数の代替案がある場合もあります）が想定できることが前提です。

ソーシャルなテーマを考えると、トップダウンで進めようとしてもステークホルダーが多くてあるべき姿がまとまらなかったり、現実の制約もまちまちであったりして解決案の合意を得るのが難しいことがあります。ボトムアップで進めようとしても、問題が複雑でいろいろな要因が絡み合っていたり、何が問題か人によって捉え方が違ったりするとやはり解決策をまとめるのが困難です。場合によっては当事者自身が本当の問題に気付いていないこともあります。このような状況で強行しても抵抗勢力に阻まれたり、総論賛成だが各論反対にあたりで実行段階で頓挫することもあります。

そこで、まず出発点で「現場の状況」や「人々の行動/思考」を観察/体験して「問題の本質を洞察」というアプローチが重要になります。ここで特徴的なのは、現場に入って人々と一緒に活動しながら状況を把握し、表に現れている現象の裏にある本質的な問題を洞察する（インサイトと言います）ことです。現場の実態をよく観察して、その状況を共感する、人々の話を傾聴しながら、その人の想いに感情移入する、ということが求められます。そうすると、問題の捉え方について人々の同意を得られるようになるでしょう。

次に行うのは、「課題を再定義」して「仮説」を作り、「プロトタイプによる試行錯誤」を繰り返して解決に導きます。ここでは仮説を立てて、それを形にするプロトタイプを作り、それを試しながら評価して改良を加えていきます。問題の捉え方が同意されても、それではどうするという段階では立場によっていろいろな要求が出て解決策がまとまりません。そこで、まだ最終案ではないですが、できるだけ最大公約数の対応策を作って試してみましよう、ということを行います。賢いアイデアを積み重ねていって、できるだけ包括的な施策になるように試作品を工夫するところが大きな山場です。それをテストして、さらに良いアイデアを見つけ、再度試作品を作ってテストするという試行錯誤を繰り返していくと、人々の意見もだんだんに集約されていくでしょう。

このような問題解決の考え方を「デザイン思考」と呼びます。問題のインサイトをつかみとるところと、解決策の効果的なアイデアを積み重ねるところが成否のカギを握っているところで、関連する領域の専門家（SME：Subject Matter Expert）が活躍するところです。仮説に基づくプロトタイプを評価して結論に到達するという進め方なので、トップダウンでもボトムアップでもなく、横から入っていくアプローチで「仮説検証型アプローチ」と言われます。

詳しい内容は事例や体験ワークショップを含めて 7 月のフォーラムでご紹介しますのでぜひご参加ください。（下記、「B2 デザイン思考ソーシャル PM のあらすじ～PMI 日本フォーラ

ムで解説」を参照)

B. ソーシャル PM コミュニティ&イベント

B1 ソーシャル PM コミュニティ(Facebook 公開グループ)にご参加ください

ソーシャル PM ニュース 2015 年 5 月号でお知らせしたとおり、PMI 日本支部ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会が主体となって運営する、Facebook の公開グループ『ソーシャル PM コミュニティ』の活動を開始しました。

ソーシャル活動を実践されているみなさま、ソーシャル PM に関心をお持ちのみなさま、ぜひこの機会に以下の URL にアクセスし、ご参加くださるようお願いいたします。

URL <https://www.facebook.com/groups/1488714048013631/>

当コミュニティを通じて、ソーシャル PM に関わる事例、手法、トピック、イベントの紹介などの情報交換、共有を図ります。

運営メンバーによる「承認制」になりますが、ソーシャル活動にプロジェクトマネジメントの手法を活かし、持続的に関わっていこうという志を持つ方であれば、どなたでもご参加いただけます。また、ソーシャル PM に関心をお持ちのお知り合いの方にも当コミュニティをご紹介いただければ幸いです。

B2 「デザイン思考ソーシャル PM」のあらすじ～PMI 日本フォーラムで解説

上記「A2 ソーシャル PM 一問一答」で、「デザイン思考て何ですか？」という質問への回答を書きましたが、それをまさに地で行った事例について PMI 日本フォーラムの 11 日(土)午後の 3 セッションで発表します。ぜひご参加ください。

- ① ソーシャル PM 実践報告「情報支援レスキュー隊プロジェクト」

徳永 礼 7 月 11 日 (土) 16 : 25 ~ 16 : 50

- ② デザイン思考ソーシャル PM ものがたり

高橋 正憲 7 月 11 日 (土) 17 : 05 ~ 17 : 30

③ デザイン思考ソーシャルPM 体験ワークショップ

中谷 英雄 7月11日(土) 17:40~18:05

「情報支援レスキュー隊」とは、災害が発生したときに被災地に入って被害状況を調べて後方支援本部に伝え、迅速な救援活動が行えるように情報の収集・発信を支援する部隊です。

上記①のセッションでは、「情報支援レスキュー隊」の事例を紹介し、その実践活動から得られたマネジメント上の課題を説明します。

2011年3月に大震災が起きた後、PMI日本支部では復興支援のプロジェクトマネジメントをお手伝いしようと考えていくつかのプロジェクトに参加しました。従来持っているプロジェクトマネジメントのパッケージを活用しようとしたのですが、すぐにそれがうまくいかないことがわかりました。「デザイン思考て何ですか？」で説明したようにアプローチの違いがあったのです。

そこで私たちは復興プロジェクトのお手伝いをしながら新しいプロジェクトマネジメントの研究に取り組みました。

②のセッションで震災後の現地調査(2011年7月)からレスキュー隊の構想が具体化してプロトタイプ・テストともいうべき稼働検証シミュレーション(2014年12月)まで約3年余の全体ストーリーをたどります。

はじめは分からなかったのですが、あとで振り返って分析してみると、まさにデザイン思考アプローチで経過してきていたのです。

③のセッションでは、②の全体ストーリーの中で最も山場であるレスキュー隊要件収集(2013年6月)とレスキュー隊構想策定(2013年10月)に焦点を当てて体験ワークショップを行います。「デザイン思考て何ですか？」で説明したデザイン思考プロセスに当てはめてみると、要件定義は問題の本質を洞察するところであり、構想策定は解決策のアイデア抽出に当たります。この2つのプロセスで使われる典型的なデザイン・メソッドを参加者のみなさんに体験していただきます。

=====

C. 連携団体情報・プロジェクト・マネジャー募集

ソーシャルPM研究会が連携している団体からのプロマネ募集です。

C1 日本財団「WORK FOR 東北」(復興庁協働事業) プロマネ募集

◆お勧めの案件

[岩手県大船渡市] 仮設住宅支援協議会（マネジャー）

大船渡市の仮設住宅団地コミュニティの醸成と支えあいの仕組み、支援者との連携促進を目的とした大船渡市仮設住宅支援協議会の統括および総務マネジャーを募集します。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/96>

[宮城県石巻市] 石巻市産業部観光課（企画営業職）

JR 仙石線の全線再開、仙石・東北ラインの開通、三陸復興公園の指定などの追い風を受け、三陸の農林水産物を始めとして地域資源が豊富な石巻の魅力を国内外に PR し、震災前の 8 割程度に留まっている石巻市への観光客の増加を図る企画営業職を募集します。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/132>

[福島県檜葉町] 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター（双葉地域の帰還促進事業・教育環境整備事業）

原発事故により避難を余儀なくされている双葉地域の方々のために、避難市町村帰還促進事業への支援と教育環境整備への支援を担当する復興支援専門員を募集します。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/131>

[福島県双葉町]

原発事故により全町民が全国に分散し避難生活しています。この状況は今後も長期化することが予想され、町民のコミュニティ維持や発展が課題となっています。この課題に対する施策を企画し、事業等を運営していただける方を募集します。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/110>

その他、全体の募集案件は以下よりご覧いただけます。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/>

◆「WORK FOR 東北」事業について

<http://www.work-for-tohoku.org/>

「WORK FOR 東北」では、東日本大震災で被災した自治体などの人材ニーズと、復興の現場で働きたいという個人、企業の方をおつなぎするサポートを実施しております。復興に携わる業務にご関心のある方、ぜひ一度ご検討いただければ幸いです。

お問い合わせ・お申し込みは以下まで

日本財団「WORK FOR 東北」事務局
東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5F
TEL : 03-6229-5229 (9:00~18:00/土日祝除く)
E-Mail : jinzai-pf@ps.nippon-foundation.or.jp

C2 「サービスグラント」イベントのご案内・プロマネ募集

■ サービスグラントのご紹介

2月号よりご紹介いただいております、NPO 法人サービスグラントです。『ビジネススキルや専門知識を活かしたボランティア活動』である“プロボノ”のコーディネートを通して、NPO の支援を行っています。

7~8月にかけて、数多くのプロジェクトが立ち上がります！ご参加希望者の方には7月中のスキル登録とプロボノワーカー説明会への参加をご案内しております。心よりお待ち申し上げます。

■ サービスグラントにご参加いただくには？

1. スキル登録

ご参加への第一歩として、みなさまのビジネススキルや専門知識について『スキル登録』をお願いしています。ご参加までの流れ、ならびにスキル登録フォームは以下ページよりご確認ください。

<http://www.servicegrant.or.jp/skill/flow.php>

2. プロボノワーカー説明会ご参加

実際のプロジェクトにご参加いただくための必須条件として、みなさまには「説明会」へのご参加をお願いしています。説明会では、より詳しくサービスグラントの考え方、これまでの実績、プロジェクトの進め方、参加にあたっての留意点等をご案内させていただいており、お時間としては1時間~1時間半程度です。

《6・7月プロボノワーカー説明会スケジュール》

- ・ 6月24日(水) 19:30~21:00
- ・ 6月27日(土) 10:30~12:00
- ・ 7月4日(土) 10:30~12:00
- ・ 7月8日(水) 19:30~21:00
- ・ 7月18日(土) 10:30~12:00
- ・ 7月22日(水) 19:30~21:00

▽ 説明会について詳しくは・・・

<https://www.servicegrant.or.jp/skill/orientation.php>

※ご参加までの推奨スケジュール（若干変動の可能性有）

- ・6月～7月上旬：スキル登録、プロボノワーカー説明会ご参加
- ・7月中旬～8月中旬：プロジェクト立候補募集、チーム編成
- ・8月下旬：プロジェクトキックオフ

【お問い合わせ先】

NPO 法人サービスグラント（担当：岩渕）

03-6419-402

info@servicegrant.or.jp

=====

編集後記

A2 ソーシャル PM 一問一答に「デザイン思考とは」を解説しました。いろいろな文献を当たってもデザイン思考の定義という形で一般化された記述は見当たりません。「イノベーションを生み出すマネジメント手法」、「発想に制限を設けない思考法」、「人間中心のアプローチ」、など部分的な視点で特性を表現している記述が多い。実務的なプロセスを提示している代表的なモデルを見ると、外見的なスタイルは異なるが基本的なアプローチの本質は類似しています。私たちはソーシャル PM に親和性があると思われるイリノイ工科大学 ヴィージェイ・クーマー教授のプロセス・モデルをベースにして研究を進めています。

このニューズレターは社会課題解決の志を同じくするプロジェクト・マネジャーのコミュニティ醸成のために関係団体のイベントや人材募集の情報連携をいたします。

毎月 15 日の発行を目標にしますので、掲載希望のニュースをお寄せください。

発行者： PMI 日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

責任者： 研究会代表 高橋 正憲

=====